

クリニカルパス委員会

整形外科 部長 西井幸信

委員会概要

クリニカルパス（以下、パス）委員会では毎月1回、各部署のパス委員が参加して委員会を開催しており、さらにワーキンググループ活動として教育・啓蒙部門、作成パス検討部門、パリアンス分析部門でのミーティングを行っています。

委員会とは別に原則毎月第1土曜日にパス改訂会を開催しており、改訂するパスの専門病棟看護師・医師・コメディカルらが集まりパスの改訂を進めています。新規導入や改訂を進め、医療の標準化・質の向上を目指します。

4月には委員会の主要メンバーに大きな変化がありました。循環器内科・山本哲史先生、消化器内科・高松正宏先生の退職に伴い、循環器内科・西田幸司先生、消化器内科・岡田光生先生を新たに副委員長として迎えました。お二人には作成パス検討ワーキンググループのグループ長として、数多くのパス検討に関わって頂きます。また、看護部も交代があり5C師長・濱口富代が退任し、新たにSCU師長・山脇寛子を迎えました。山脇師長には教育啓蒙ワーキンググループに属し、スタッフの教育に携わって頂きます。

コロナウイルス感染拡大におけるパス活動への影響

今年は、例年とは大きく違った1年となりました。

2020年2月末に高知県で初めて感染が報告されたこともあり、3月以降の定例委員会は当院のCOVID-19対応目安レベルに準じて開催の決定を検討しました。

パス改訂会は原則中止とし、作成・改訂を急ぐものについては、電話やメールといった手段を使って改訂を進めました。

例年、年2回開催しているパス大会も見合わせ、未だ開催予定はありません。

院外活動も2020年11月に岐阜県にて開催の決まっていた日本クリニカルパス学会学術集会が中止となりました。

まだ終息の目途は立たず例年のような活動は出来ませんが、必要なこと、出来ることを着実に進めて参ります。

地域連携パス活動

脳卒中地域連携パスと大腿骨頸部骨折地域連携パスの2種類ありますが、現在はパス委員会ではなく、各科（脳神経外科、整形外科、近森リハビリテーション病院、近森オルソリハビリテーション病院）にて管理しております。

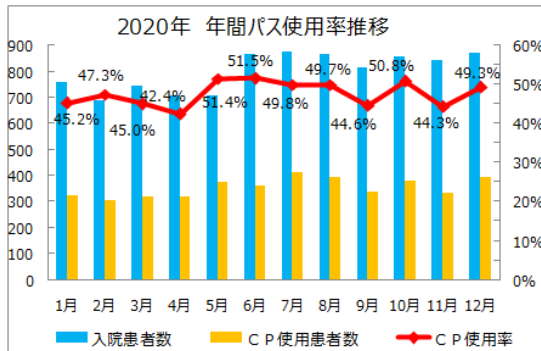
パスの作成・改訂状況

今年は新規のパスを8種（胸腔鏡下肺葉・肺区域切除術パス、胸腔鏡下縦隔腫瘍手術パス、胸腔鏡下肺部分切除術パス、肩胛板断裂手術パス、2核種同時収集安静時法心筋シンチグラフィープラス、ループレコーダーパス、心筋シンチグラフィ（テクネシウム／アデノシン）パス、食道胃静脈瘤パス）導入しました。

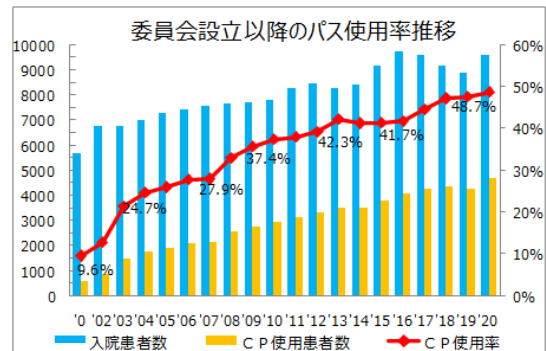
また、6種の改訂を終え、2020年末の時点で76疾患90種類のパスが稼働しています。

使用率

年間平均使用率は48.7%と上昇しております（図1）。委員会設立以降少しずつですが使用率は増加しており（図2）、目標年間使用率の60%に近づいています。しかし、まだまだ届かない現状です。パス使用の少ない診療科への新規作成の呼びかけ、使用率の低いパスの改訂を試みるなど活動していきます。



(図1) 2020 年年間パス使用率推移



(図2) 委員会設立以降のパス使用率推移

ワーキンググループ活動

パス委員会を下記の3つに分類し、個別に活動を行っています。

①作成パス検討ワーキンググループ

改訂会にて作成したパスを他科の医師・専門病棟以外の看護師・多職種で再度確認することにより、医療の標準化、質の向上を目指します。

今年はパス作成・改訂が少なく、定例委員会も中止が多かったため積極的な活動はありませんでした。

②バリエーション分析ワーキンググループ

改訂会を予定しているパスのバリエーション分析を事前に行っています。分析結果やその他修正の提案を受け、改訂会で話し合いを進めています。

今年は改訂会中止のため、活動はありませんでした。

③教育・啓蒙ワーキンググループ

新入職員対象パスオリエンテーション、冬期部署別パスレクチャーなど開催し、職員の知識・理解を深めます。

今年は開催時期や開催回数、参加人数を検討し、新入職員対象のオリエンテーションを行いました。パスレクチャーも感染対策を講じ、開催予定としています。

パス大会

今年は新型コロナウイルスの影響にて開催しておりません。

学術発表・講演会等

参加はありません。